



オアシス

文責：副学長
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2020年6月17日発行 第26号

新型コロナウイルスの感染も全国的に収束傾向となり、緊急事態宣言も解除となりました。注目すべきは、世界の政府が完全外出禁止令を発する中、日本は自粛要請だけで収束させたことに世界中が絶賛していることです。理由は解明されていませんが、おそらく生活様式の違いからくるものと予想できます。しかし、環境が良すぎるために、抗体や耐性が付きにくい面もあるのではないかと思います。私たちは、今後も予防に徹することが肝心のように思われますので、油断のないように日々の行動に注意したいものです。

全国的に緊急事態も解除され、出雲市も学校が再開しました。本アカデミーでも6月より、準備が整った講座から開始したところです。安全対策をしっかりと行いながらコロナに負けない前向きな姿勢で取り組んでいきたいと思えます。

◎ 今年度の講座が徐々に活動開始！

6月から本科のすべての講座と別科の「オーケストラレポーター」「アクティングクワイア」「邦楽合奏」が準備期間（1ヵ月間）として開講いたしました。残りの別科「コーラスレポーター」と「幼児科」は、7月から準備期間としての開講を目指しています。それぞれの講座が準備期間を経、今後問題がなければ8月には全講座が本格的に開始となる予定です。

なお、準備期間中では三密を控え、全体合奏や合唱は行わず、個人レッスンやグループによる基本練習を中心に行っています。レッスン中はマスクの着用は勿論ですが、管楽器のようにマスクが着用できない楽器については、受講生と講師間に透明なビニールシートを設置して、感染対策に対応しながら実施しています。その他にも手指の消毒、室内の換気、こまめな室内清掃、人との適切な距離の確保等を配慮しながら工夫して取り組んでいます。しかし、夜間の換気には虫対策が必要であり、今後網戸の設置等に対応していけるよう運営会議で話し合いました。

7月からの開講（準備期間）を目指している幼児科では、先ごろ保護者へアンケートを実施しました。24件の回答があり、すべての方から「開講場所に通学して受講したい」という回答をいただきました。これまでにアカデミーが配信した動画をご覧いただいているようで、開講を楽しみにしている様子のメッセージを沢山いただいているところです。

先日から梅雨に入り蒸し暑い日が続くと思われます。その先には夏の猛暑が待ち受けて



弦楽器入門の様子！



キッズアンサンブル・コーラスは体操から…！



活動はグループに分かれて…！



Jr.コーラスは楽典から…！

います…。これからの時期は、コロナ感染対策に加え、熱中症予防も忘れてはなりません。こまめな水分補給も重要ですので、持ち物には必ず水筒の準備も忘れずをお願いします。

◎ 世の中が変わることへの懸念！

新型コロナウイルスの感染拡大が世界中を混乱の渦に巻き込み、経済が停滞しほとんどの業種が休業を強いられました。自宅待機を余儀なくされる中、IT 機器によるオンラインやテレワーク、リモート化の重要性がクローズアップされるようになり、わざわざ出社しなくても仕事ができることをコロナ感染により気付かされることになりました。そのIT 機器の活用が日本はすごく遅れていることにも気付かされました。そうすると、コロナ感染が終息した後の社会生活は一変するのではないかと感じているところです。経済界では、密になって会議をする必要性がなくなり自宅でも仕事ができ、企業の社屋自体が縮小していくのでないかと思えます。そうすると、都会一極集中型から地方分散が始まり地方の人口も増えることが期待できるのかもしれませんが…。

一方、教育環境はどうなるのでしょうか…。この度のコロナ感染拡大により、長期間にわたり学校休業が続きました。このような状況下では、オンライン授業が最も効果的となり、文科省もタブレット端末を全児童生徒に配布できるように対策を講じるようになりました。学校へ行かなくても授業ができる環境になると何が良くて何が問題になるのかをきちんと分析しておくことが大切と考えます。オンライン授業では、周囲に人がいません。ですからサボろうと思ったら適当に誤魔化されるかもしれません…。それぞれの個々が前向きにやる気の姿勢で臨まないと学習効果は得られないような気がします。少し前には、教師主導型の講義スタイルの授業が問題となり、教育改革が紆余曲折を経ながらも「学び合い」や「考える」授業スタイルに変わろうとしていました。ここにきて、集団で密になることが制限されることになると、個人がよほどの積極性がないと取り残されてしまうことになり兼ねません。世の中には、このような現象を察知していたかのように大学改革を大々的に行っている大学があります。まず、学び舎がありません…。授業はすべてオンラインで、卒業するまでに世界の拠点4か国を経験し、それぞれの文化を含め幅広く学べる機会が与えられている教育プログラムが注目を浴びているということです。学舎で座学のスタイルはもはや時代遅れとなりそうです…。

そのように世の中が変わろうとするとき、私たちはどのように行動すべきか考えてみると、ただ何も対策なしで呆然と与えられるのを待つ姿勢では何も始まらないことが想像できそうです。自分から求めていく姿勢こそが問われることになるのではないかと思います。すでに現在でもベンチャー企業の進出が際立つようになりました。起業するのは若者が多く、20歳で社長というのはごく普通の時代になりつつあります。時代に即したアイデアさえあれば会社経営も夢ではないということでしょうか…。

本アカデミーでもやらされている受け身の姿勢から、自分からチャレンジしていく姿勢に変わっていくことが、今後の基本的な考え方として捉えなければならないコロナ感染終息後の大きな課題といえるのかもしれませんが…。



【このたよりは、本アカデミーホームページでも掲載します <https://www.izumo-zaidan.jp/academy/>】